高齢化日本一の南牧村における農村振興に関するアンケート調査

Survey research on rural development in Nanmoku village, the highest aging village in Japan

○管谷　晋*
SUGATANI Susumu

１．はじめに：「日本創成会議」は、2014 年政策提言「ストップ少子化・地方元気戦略」において、群馬県南牧村を「最も消滅可能性が高い市町村」とした。今回、この南牧村において、「南牧村振興に関するアンケート」を実施し、南牧村村民の過疎化、高齢化に対する認識を把握、分析し、今後の地域振興についての検討の一助とすることとした。

２．南牧村の概要：南牧村は、群馬県の南西部に位置し、周囲は 1,000m 級の急峻な山脈に囲まれた面積 119 平方 km の村である。平成 27 年度において、人口は 1,979 人、高齢化率（65 歳以上の人口の割合）は 60%と、全国の 27%と比べ高齢化が大きく進展している。

３．アンケート調査の実施

南牧村に居住する全世帯 931 戸を対象に、南牧村の協力のもと、自治会役員によりアンケート調査票を配布し、402 の回答（回収率 43%）を得た。アンケートでは、回答者の年齢や職業、過疎化、高齢化についての考え方、南牧村の振興方策など、26 の質問を示し、回答を求めた。回答者は、70 代以上が 64%となるなど、高齢者の割合が大きいものとなった。

４．調査結果

アンケート調査結果から、人口減に対する考え方、日常生活の問題点、南牧村の魅力、村への要望及び振興すべき産業についての概要を示す。

(1)人口減の原因：人口減の原因として「仕事･収入の機会の減」を挙げる者が 86%と最も多く、「医療、買い物等日常生活が不便」42%、「子供の教育のため」34%と続いた。また、「仕事･収入の機会の減」の中では、「コンニャク栽培の不振」が 38%と最も多くなった（図-1）。

(2)日常生活の問題点：日常生活の問題点として、「医者･病院」を挙げる者が最も多く 44%、「買い物」37%、「交通」29%、「特になし」28%の順となった。

次に、各事項を年代別に対比すると、70 代以上は「食事」、「交通」、「買い物」が大きく、若い年代では「教育」、「余暇・娯楽」、「働き口」が大きいなど、年代によって問題点の捉え方が異なることが明らかになった（図-2）。

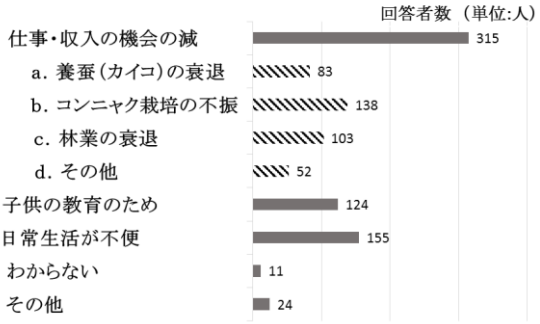

図-1 人口減の原因　（複数回答を含む）

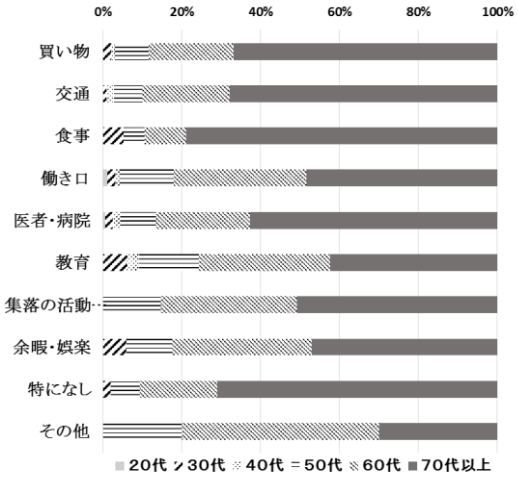

図-2 日常生活の問題点（年代別割合）

* 日本水土総合研究所 Japanese Institute of Irrigation and Drainage
キーワード:農村振興、人口減、高齢化

(3)南牧村の魅力：南牧村の魅力については「自然に恵まれている」が 80%と最も多く、続いて「大日向の火とぼしのような村独特の文化」30%、「黒滝山不動寺などの史跡、文化財」26%、「福祉が行き届いている」21%、「暮らしやすい」20%の順となった（表-1)。

(4)村への要望：　南牧村への要望は、「村営バスの便数の増」が 35%と最も多く、「特になし」が 32%、「医者・看護師さんの巡回･医療相談」が 30%と続いた（表-2)。

(5)振興すべき産業：今後、南牧村において振興すべき産業については、「老人福祉･介護」が最も多く 43%、「工場･会社の誘致等商工業」41%、「観光･宿泊」35%の順であった。

これを年代別にみると、70 代以上では「老人福祉･介護」49%、「工場･会社の誘致等商工業」35%、「観光･宿泊」29%、「林業」26%と続くのに対し、60 代では「工場･会社の誘致等商工業」が最も多く 49%、続いて「観光･宿泊」41%、「老人福祉･介護」38%、「林業」26%の順となった。

このように、振興すべき産業についても、年代によって、考え方に違いのあることが判明した。(図-3)。なお、「老人福祉･介護」については、福祉・介護のために新たな雇用が発生することなどの産業としての「老人福祉･介護」であるとともに、高齢者にとっては、自分にとって身近で、その充実を願う対象であるという認識による影響もあったものと推測される。

表-1 南牧村の魅力

（単位:%）

事　　項	事項を挙げた回答者の割合
自然に恵まれている	80
田舎であること	11
黒滝山不動寺などの史跡、文化財	26
大日向の火とぼしのような村独特の文化	30
暮らしやすい	20
福祉が行き届いている	21
特になし	12
その他	3

（複数回答含む）

表-2 村への要望

（単位:%）

事　　項	事項を挙げた回答者の割合
食事の配達	8
医者･看護師さんの巡回･医療相談	30
ゴミ捨て･回収	9
集会･談話の場所の確保	11
運動の出来る広場等の整備	8
村営バスの便数の増	35
特になし	32
その他	6

（複数回答含む）

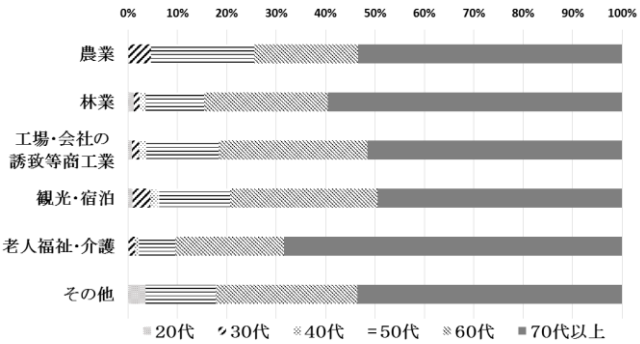

図-3 年代別振興すべき産業

５．考察：アンケート調査の結果、「仕事･収入の機会の減」を人口減の原因と捉える人が多く、その中では、コンニャク栽培の不振と考える者が多いこと、日常生活においては、「医療面」に課題が有り、振興すべき産業として「老人福祉･介護」を挙げる者が多いこと等が明らかになった。南牧村の魅力については、「自然に恵まれている」、「祭り等の村独特の文化がある」、「誇るべき史跡･文化財がある」と考えている者が多いということが分かった。また、分析を進める中で、たとえば、日常生活の問題点や振興すべき産業などについては、年代の違いによって考え方にも違いがあることが判明した。このため、振興への取組の検討にあたっては、全体的な意見とともに、回答者の年代等の帰属所属条件の違い等にも留意して方向性を検討し、具体の取組を進めていくべきであると考えられる。

６．おわりに：南牧村においては、高齢者に対する福祉サービスの充実、また、空き家バンクなどの村外からの移住者に対する情報提供など、様々な過疎化、高齢化対策を実施している。また、行政の取組だけでなく、自発的に南牧村の広報や振興活動等を行っている村民も見られる。ただ、人口減、高齢化への課題を短期間で解決することは困難であり、長期的な展望のもと、その対策を総合的に実施していくことが重要であると考えられる。